

残暑の砌、宮崎県防衛協会青年部会宮崎支部会員の皆様には、ご健勝のこととお慶び申し上げます。

8月の自衛隊関連行事は皆様にもご案内しましたが、4日に「新田原基地納涼の夕べ」が基地内で開催され、新任の熊谷司令と親しく名刺交換をさせて頂きました。

同10日は熊本キャスルホテルにて「北熊本駐屯地及び第8師団創立記念式典」が600名を超える参加者の元、盛大に開催され歴代師団長の皆様などと昔話に花を咲かせたところです。

また15日は宮崎県護国神社にての「大東亜戦争戦没者慰霊追悼式典」に参列し、その後神宮会館での日本会議主催のセミナーに参加いたしました。

そして28日は、恒例の「富士総合火力演習」に馳せ参じ、曇天では有りましたが、陸自の各種火砲の威力に今年も大変感動した次第です。

さて今月も小川先生のメルマガに誠に面白い一文が掲載されており、お許しを得て転載させて頂きますので、皆様何卒ご一読賜れば幸甚に存じます。

## ・安倍さんは「深謀遠慮」の人

深謀遠慮という言葉があります。

遠い将来のことまで考えて周到にはかりごとを立てることで、**深慮遠謀**という言い方もされます。

私は安倍晋三首相の**内閣改造人事**を見て、安倍さんは深謀遠慮の人だという思いを一層強くしています。

安倍さんは2012年12月に再登板して以来、「ひとつのスタイル」をとることによって、特に日本が苦手とする**外交**を最高レベルにまで**安定させるのに成功**しています。

その「ひとつのスタイル」は、**2段階**から成り立っています。第1のステップは、安倍さんを強く支持してきた人々を厚遇することによって、この人たちのタカ派的、あるいは**国粹主義的言動を自粛させること**、そして第2のステップは、**米国、中国、韓国の反応を探りながら**、日本外交の推進が円滑に行えるよう自らの政治姿勢を巧みに**軌道修正**していく、というものです。

安倍さんの**支持者**の中には、中国、韓国はもとより、米国でさえ眉をひそめるような**右寄り**の言動をする人が少なくなかったわけですが、その人たちを**要職**に就ければ**失言問題**を引き起こすことが明らかなのに、それなりの人事を実行しました。はたして、次のような舌禍事件が相次ぎました。

例えばNHK経営委員だった作家の百田尚樹氏は2014年2月、東京都知事選で田母神俊雄元航空幕僚長の街頭演説に登場した際、南京大虐殺について「1938年に蒋介石がやたらと宣伝したが、世界の国は無視した。なぜか。そんなことはなかったからだ」と述べ、中国側の猛反発を受けました。百田氏は翌年2月、1期でNHK経営委員を辞任しましたが、安倍さんの意向で更迭されたということはないようです。

桜田義孝議員は2016年1月14日、慰安婦のことを「職業としての売春婦。犠牲者として宣伝するな」と失言し、謝罪することになりました。

その直後の1月22日には、自民党政調会長の稲田朋美氏(現・防衛大臣)が「A級戦犯は犯罪人だと言い切ることに抵抗がある」と発言、米国などかつての戦勝国から反発されることになりました。

これはほんの一例ですが、それでも安倍さんはこの本人たちを叱責したり、更迭したり、処罰することはありませんでした。

そして、その一方で一連の失言などに対する米国、中国、韓国などの反応を仔細に分析し、外交路線を巧みに修正していったのです。

例えば慰安婦問題について、女性の人権の問題という枠組みで括り、その中で被害者の救済をしていくという路線など、その代表的な一例です。当時のヒラリー・クリントン国務長官から「シンゾーは同志だ」という手紙が届いたほどでした。これは大成功と言ってもよい政治姿勢の軌道修正です。

失言した当人たちはといえば、安倍さんに迷惑をかけたのに首を飛ばされなかったという思いがあるものですから、主義主張を抑えるようになり、失言、暴言も少なくなります。安倍さんとしては、路線修正をやりやすい環境が整うことになるわけです。

整理するなら、問題発言しそうな支持者たちを厚遇し、あえて失言させ、更迭などしないことで恩を売って、主張しないよう自主規制に追い込み、誰に気兼ねすることもない環境で路線を修正していく、というスタイルなのです。巧妙だと思いませんか。

そうした安倍さんの真骨頂は、稲田朋美氏の防衛大臣への起用かもしれません。

8月12日の朝日新聞は次のように書きました。

閣僚の靖国参拝、自肅要請 中国側、稲田氏を名指しか

「中国政府が11日までに、日本政府に対して外交ルートを通じ、閣僚が靖国神社に参拝しないよう申し入れていたことがわかった。複数の日中関係筋が明らかにした。特に稲田朋美防衛相の名前を挙げて懸念を示した模様だ。中国では終戦の日の15日に向けて参拝への警戒が高まっている。(中略)

中国国内では、稲田氏について、防衛相就任直後から『右翼で軍国主義の傾向がある』(国営新華社通信)との受け止めが広まっている。(後略)(北京＝倉重奈苗)」

安倍さんにとって、そんなことは承知のうえです。安倍さんの考えでは、中国などに対して明確な姿勢を見せてきた稲田さんが、日本国の防衛大臣としていたずらに事を荒立てることなく関係を正常化できれば、中国、韓国は日本を疎かに扱うことができにくくなるし、国内的にも中国、韓国に屈したという批判を封じることができる、というわけです。

防衛大臣に就任した稲田さんは、早速、中国訪問に意欲をのぞかせました。これは中国側から歓迎されていた中谷元・前防衛大臣の今秋訪中という規定方針を引き継いだものでもあります。

このメルマガの配信日は終戦記念日の8月15日ですが、稲田さんは早速、13日から16日までの日程でアフリカ・ジブチに派遣されている海賊対処部隊を視察する形で、8月15日という大きなハードルを越えて見せました。

今後、稲田さんがどんな泳ぎを見せるのか、注目していきたいと思います。

(小川和久)

以上のように何故8/15にジブチに行ったのか、また昨日稲田防衛大臣は就任後初めての訪米をして、カーター国務長官と会談をするとの報道がありましたが、何故この時期なのか等を考え乍らニュースを聞くと色々面白い事実気付かされます。

台風10号が九州をやり過ぎしていきなり東北に上陸するのも、何か訳ありか？と考えるのは、ただの考えすぎなのでしょう。(笑)

名ばかりの立秋に惑わされず、呉々もご自愛専一にお過ごし下さい。

平成28年9月1日

宮崎県防衛協会 青年部会 宮崎支部長 小倉和彦